

令和5年度
静岡市協働パイロット事業
事業報告書

就職氷河期世代を始めとする多種多様な市民による、
フラットに語り合えるコミュニティ形成及び情報発信

令和6年3月31日
つながりあいず

1. 実施期間

令和5年7月31日～令和6年3月31日

2. 事業概要

- ・対象:ライフデザイン・プログラム参加者を中心とする、主に就職氷河期世代の方々
- ・課題:就職氷河期世代の様々な課題・問題の背後にある孤独をどの様に解消するか
- ・課題解決:お互いの人生を支え合い、何度でもチャレンジし合う「共助」の枠組を市民レベルで醸成する。具体的には、就職氷河期世代を始めとした多種多様な市民同士で、フラットな対話型コミュニティを形成する。

具体的な実施内容

- ①対話・相互応援のできるコミュニティ形成を目的とした「チャレンジしたいこと」のイベント化
[イベント例]仕事困りごとシェア会、職業体験、おしゃべり会、学び合う会、音楽活動、恋愛・結婚トーク会 等
[開催頻度等]月1回程度(年8回)／定員…10名程度(1回につき)／チラシ発行…50部程度(1回につき)
- ②繋がった地域資源(人や場所など)の情報発信(つながりの見える化・情報提供)
[対応例]ホームページ作成、SNS等の活用、季刊誌発行 等
[季刊誌]年3回発行／印刷…50部程度／A3両面カラー

※市の共同事業担当部署:地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 誰もが活躍推進係

3. 実施内容報告

①イベント開催報告

回数	実施日程	イベントタイトル	内容・目的	参加人数
1	2023.09.07	あの日・あの時・これから 自分物語	ゲストトーク(インタビュー) 仲間の話を聞く事で、生き方や気持ちの 持ちよう等の「選択肢」を増やす	10名
2	2023.10.15	番町学園祭	・出展:みんながアーティスト展 ・出演:LD MUSIC BAND	延べ 34名
3	2023.11.23	たいわタイム (ライフデザインワークショップ)	大学生から社会人まで、他世代がごちゃ まぜになって「対話」することで、キツキ・ キッカケを創る。	24名
4	2023.12	おはなし会 (ライフデザインダイアログ)	語ること聴くことを通じて、一人では辿り つけない「自分の本音」に気づき、次の一 歩を踏み出すキッカケを創る。	延べ 22名

回数	実施日程	イベントタイトル	内容・目的	参加人数
5	2024.01.14	ケツコンカンかたる会 (インドア編)	普段話しづらい「結婚観」について語り合うことで、自身の価値観の幅を広げ、他者との出会いのキッカケを創る。	8名
6	2024.02.10	たいわタイム (ライフデザインワークショップ)	「対話」することで、キヅキ・キッカケ・つながりを創る。	9人
7	2024.03.17	ケツコンカンかたる会② (アウトドア編)	「見る景色、出会う人を変えれば、新しいキヅキがある」普段行かない場所に出向き、交流する事で、新しい出会い(つながり)のキッカケを創る。	7名
8	2024.03.30	未来絵日記を叶えよう! (ライフデザインワークショップ)	これまでWSで描いてきた「未来絵日記」を叶えるWS「未来絵日記+」の開催	5人

1) あの日・あの時・これから自分物語

日時:2023.9.7(木) 21:00~/場所:オンライン/参加:10名

目的:仲間の話を聞く事で、生き方や気持ちの持ち方等の「選択肢」を増やす。

インタビューを視聴するという「非日常」を楽しむ。

内容:約1時間、ゲスト(燕之宿店主・大澤さん)とインタビュアー(つながりあいず副代表・杉山)のトークセッションをオンラインで視聴してもらい、最後に質問 Time を設けた。

インタビュー内容は、季刊誌「みなもっと!」の特集ページとして発行。

感想:・同じ出来事も、自分とは違う解釈があると知り、非常に有意義な時間となった。

・普段インタビューを見る事がないので、とても貴重な経験ができた。

・気持ちを聞く事ができて、みんな悩みながらも頑張っているんだと知れてよかった。

・色々な癖はあるけれど、意識次第で変えられると思った。

・楽しむのは難しいと思っていたが、肩の力を抜いて自分の気持ちに正直になろうと思った。

総括:インタビューは、団体として

も初チャレンジだったが仲

間の「気持ち(内側)」を聞

く事が他の仲間の「勇気」

や「希望」や「具体的な一

歩」につながったと実感す

る事ができた。課題として

は、オンライン参加となると

参加できない方もいるため

工夫が必要と考える。

写真省略

2) 番町学園祭

日時:2023.10.15(日) 10:00~/場所:番町市民活動センター/参加:延べ 24 名

目的:ずっと抑えていた「自分」を表現することで、誰でもいつでも再チャレンジ出来る事を実感

内容:みんながアーティスト展で、個人作品の出展/LD MUSIC BAND 出演

感想:・もう音楽活動はできないと思っていたので、誘ってもらって本当に良かった。

・生きる希望になった。新しいつながりができて、心強い。

・初めて自分の作品を購入してもらった。作る楽しみを知る事ができた。

・みんなとどんな作品を作るか話し合う時間も、とても楽しく仲間が増えて嬉しい。

総括:それぞれが、出来る事を出来

るだけチャレンジする事を目標

とした。当日参加できなくて

も、準備を手伝ったり、作品を

提出したり、当日の設営や片

付けを手伝ったり。程よい距離

感と程よい負荷でチャレンジ

ができた結果、新しいつなが

りが増えたり、次にチャレンジ

したいことが生まれたり、次

へ踏み出す一歩となった。

写真省略

3) たいわタイム(ライフデザイン・ワークショップ)

日時:2023.11.23(木) 10:00~/場所:Takt(草薙)/参加:24 名

目的:大学生から社会人まで、他世代がごちゃまぜになって「対話」することで、キツキ・キッカケを創る。選択肢の幅を増やす。

内容:ライフデザイン・ワークショップ

感想:・初めての事で、緊張と戸惑いもあったが最後はお話しができて良かった。

・人に自分の話を聞いてもらうのが、こんなに楽しいとは思わなかった。

・周りの方の話を聞く事で、こんなに気付きがあると思わず、新鮮な経験だった。

・同じグループの方の人生に触れ、自分の人生を見つめるキッカケになった。

総括:ライフデザインプログラムで出会っ

た仲間の「大学生とワークショップ

やってみたい」との気持ちからスタ

ートした本イベント。中小企業家同

友会の皆さんとのコラボ開催。企画

から広報まで、上手いかない事か

らも学び合い、当日は初めてライフ

デザインを体験される方も多数参

加頂いた。10月に番町学園祭に

出展した「みんながアーティスト

展」も展示し、より多くの方とつなが

るキッカケを創る事ができた。

写真省略

4) おはなし会 (ライフデザイン・ダイアログ)

日時: 2023.12.2(土)、10(日)、17(日)、30(土) 10:30~/場所: SOW/参加: 延べ 22 名

目的: 語ること・聴くことを通じて、一人では辿りつけない「自分の本音」に気づき、次の一歩を踏み出すキッカケを創る。

内容: ライフデザイン・ダイアログ

感想: ・まさか、こんな話をするとは思わなかった。場の空気が安心・安全だったからだと思う。

・けっこう重たい話題だったのに、場が暗くならないのは驚いた。

・話し手さんの表情が、最初と最後で全く違っていて、改めて「対話の力」を実感しました。

・悩みを話していたつもりが、次の一歩への具体的な決意発表になっていたのは不思議。

総括: 「今年の気持ち・今年の内に」をキ
ャッチコピーにして広報実施。出来
るだけ多くの方に参加していただき
たく、同月内に複数開催するチャレ
ンジを実施。結果、普段なかなか参
加できない方も参加頂く事ができ
た。皆、色々な想いを抱えながら生
活しているんだと知る事ができ、人
は支え合い・気持ちを吐露する仲
間が必要だと改めて痛感した。

写真省略

5) ケツコンカンかたる会

日時: 2024.1.14(日) 13:00~/場所: チャレンジハウス&オンライン/参加: 8名

目的: 普段話づらい「結婚観」について語り合うことで、自身の価値観の幅を広げ、他者との出会いのキッカケを創る。

内容: アイスブレイク (おやつ購入、会場まで探検、) ガチャガチャで質問→かたり Time

感想: ・子どもに返ったみたいで、ワクワクした。(おやつ買いや探検、ガチャガチャなど)

・バラエティーとんだ質問がたくさんで、とても面白かった。

・もう少し「結婚観」について、語り合いたかった。 ・また、集まりたいと思った。

総括: 全体的に「童心に戻る」事を意識し、
企画立案。自然と会話が生まれ、お
互いを知るきっかけとなっていた。体
調不良で欠席者が多く、急遽オンラ
インとのハイブリッド開催とした。かた
り Time では、質問数が多く「結婚
観」にフォーカスした対話が出来な
かった事が反省点。だが2回目の開
催も決定する等、参加者からも積極
的な様子が見られた。ハイブリッド開
催は難しい部分もあったが、参加で
きて良かったとの声もあった為、今後
も臨機応変な対応を行っていく。

写真省略

6) たいわタイム(ライフデザイン・ワークショップ)

日時:2024.2.10(土) 10:00~/場所:まるしずキッチン/参加:9名

目的:「対話」することで、キヅキ・キッカケ・つながりを創る。

内容:ライフデザイン・ワークショップ

感想:・同じような経験をされている方がいて驚いた。

- ・一人になると、またネガティブになりがちだけど、当日話せた事で前向きになれている。
- ・こんなに人に話を聞いてもらうことはなかったが、ありのままの自分でいいと思えた。
- ・色々な価値観に触れて、世界・視野が広がった。

総括:対話の力は、すごい!の一言。今回、

グループ分けはあまり意識せずは無
作為に分けたが、同じような経験をさ
れている方が、たまたま同じグループ
になり、これまで誰にも語った事のな
い話を思わず話される場面があっ
た。自分の人生の物語は、誰かの人
生を勇気づける力があるとも感じる。
配慮も必要ではあるが、思い切って
場の雰囲気や空気感に任せる事も
大事だと感じた回だった。

写真省略

7) ケツコンカンかたる会②

日時:2024.3.17(日) 11:00~/場所:ラリーナ他/参加:7名

目的:「見る景色、出会う人を変えれば、新しいキヅキがある」普段行かない場所に出向き、交流する事で、新しい出会い(つながり)のキッカケを創る。

内容:・初めて行く場所に行き、新しい景色や新しい出会いを通じて、キヅキを得る。

- ・身体を動かす事(卓球)を通じて、コミュニケーションを深め、自分を知る。

感想:・いつもと違う行動をするだけでもワクワクしたし、初めましての方に出逢えて楽しかった。

- ・体を動かすことで、自然とリラックスできてコミュニケーションをとる事ができた。
- ・雑談する中に色々な気づきがあった。対話はとても大切だと改めて感じた。
- ・「結婚観」について語る時間もあり、時間はあっという間だった。

総括:「最近、服を買ってないんです」雑談

の中で、ある仲間が言った言葉がヒントに
なり開催した本会。新しい景色+体を動か
すこと+新しい出逢い=気づきや自分を知
るキッカケになる様子が、多く見られた。初
めましての方同士が、雑談を通じてコミュニ
ケーションをとり、次回の約束をしていたり、
共通の知り合いがいる事が分かったりな
ど、日常の中に非日常を混ぜると化学反応
が起きる事を実感した会となった。

写真省略

8) 未来絵日記を叶えよう! 未来絵日記+ (ライフデザイン・ワークショップ)

日時: 2024.3.30(土) 10:00~ / 場所: コゼット / 参加: 5名

目的: これまでワークショップで描いた「未来絵日記」を叶えるために、具体的な目標を立てる。

既に叶った事に気づき、現時点での新しい目標を立て直す事で、より実現に向かう。

内容: 通常のワークショップに加え、1年前のワークショップで描いた未来絵日記と比較する。

感想: ・他の仲間の気持ちを聞くことで、自分の源に気づく瞬間があった。

- ・全く忘れていた気持ちを思い出し、新鮮でもあり時間の流れを感じる事ができた。
- ・会話を通して、実現させる為に具体的なイメージを持つ事ができた。
- ・忘れていた気持ちを思い出し、改めて新しい未来絵日記を描くことができた。

総括: 年度末、体調不良、環境変化など、それぞれが課題がある中で、集い合えたことが何より良かった。今回は、以前のワークショップで描いた未来絵日記の再編集という事で、通常のワークショップの内容を工夫した初の取組みであった為、試行錯誤であったが、参加者の積極的な「その気になって参加」する様子に和やか且つ具体的な今後の行動目標を掲げる事ができた。

写真省略

②情報発信実施報告

実施項目	内容
ホームページ作成	つながった方（主に静岡市主催ライフデザイン・プログラムを受講された方）が、コミュニティ活動へ参加しやすい様、ホームページを作成・運用。 [主なコンテンツ] ・活動の様子を掲載（ブログ・写真・動画） ・SNS への誘導（Facebook・公式 LINE）・イベント告知等 URL・・・ https://27gari-loves.jimdofree.com/
SNS の活用	・Facebook ページ、公式 LINE 及び Instagram アカウント作成 それぞれの SNS 上で、イベント告知や活動報告を配信。 ・YouTube チャンネル開設（インタビュー）
地域資源情報発信	イベント開催会場の「オーナーさん」にインタビューを実施し、YouTube チャンネルにて公開及びインタビュー記事を作成し、季刊誌に掲載。 ・実施実績: 大澤康生さん（燕之宿）、町野知里さん（SOW）
季刊誌の発行	季節お便り「みなもっと!」を発行。編集部を創り、希望者を募った。 （編集部スタッフ: 7 名） ・発行・・・①令和5年7月 ②令和5年10月 ③令和6年3月 ・印刷・・・A3 両面カラーで各50部印刷し、コミュニティメンバーへ配布。
ミーティング開催	月2回「コミュニティミーティング」を実施。雑談会（情報交換等）の場を提供。毎回 4~8 名の方が参加された。

4. 成果と課題

今回の事業では、主に対話を通じた相互応援のできるコミュニティ形成と、その先に様々な課題にチャレンジし、個々人が自己受容力を高めるきっかけを掴むことが目的である。以下、成果と課題を挙げる。

成果①

市のライフデザイン・プログラムを通じて新しい出逢いがあり、顔が浮かび合う仲間が増えたと実感できた。（1年間でコミュニティ登録者数は、26名増加）また、地域の中で、新しい出逢い（人や場所）を創出できた。イベントを開催した会場を、参加者が後日自発的に利用する様子も見られ、一過性ではなく継続した繋がりやのキッカケを創る事ができた。

成果②

これまでチャレンジしたくとも踏み出せなかった事や、一度チャレンジしたが様々な事情で諦めていた事に仲間と共にチャレンジする事ができた。例えば、音楽バンド結成・ステージ出演や新しい職種へ応募し採用となる等、個々の成長や変化が見られた。また何より「安心・安全」の仲間・場がある事で、物事への解釈が変わり「新しいつながりが出来た事で、1人ではないと言う安心感が増え、課題にチャレンジすることができた。生きづらさが少し軽減した様に感じる。」との声も寄せられた。

課題①

参加者の多くが「生きる手応え」を求めていると感じるが、個々の課題解決（孤独や就労、生活技術の不足等）への具体的なアプローチが、不十分であった。本事業を通じて出逢った行政機関や地域資源と更に連携を強化し、課題解決の受け皿も構築していく。

課題②

地元企業へアプローチを行ったが、パートナーシップ構築に至らず、資金面での自立が課題となった。しかし、この課題を新たな挑戦の機会と捉え、他の資金調達方法（例えば寄付やクラウドファンディング等）や収益化のアイデア（商品販売や有料サービス提供、イベント開催等）を検討している。